

Q4-1. 立野ダムは土砂の堆積により、川の濁りが長期化するのではないのでしょうか。

○洪水末期（水位低下時）においては、濁りの原因となる細かい粒子の砂（火山灰等）のほとんどが既に下流に流されてしまうと考えられます。（写真－１）

○また、立野ダム建設前後の水の濁りの変化について、シミュレーションを行った結果、年間で水質汚濁に係る環境基準の項目であるSS（浮遊物質量）が環境基準値を超える日数は、ダム建設前後を比較するとほぼ同程度となります。（図－１）

○このため、ダム建設に伴う川の濁りの長期化は発生しないと考えています。

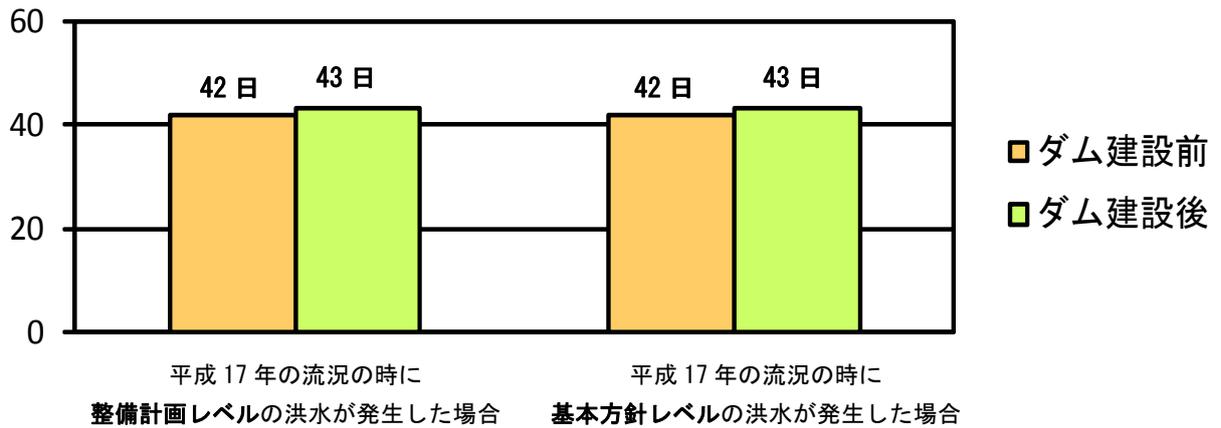


普段水が流れない高い位置には砂が堆積しますが、河床付近には砂礫のみが残っています。



河床付近に堆積した細かい粒子の砂（火山灰等）はほとんど流されてしまいます。

写真一 1 出水後の河川の状況（白川・黒川合流点付近）



近年の平均的な流況である平成 17 年の流況に整備計画レベル（平成 2 年 7 月規模）や基本方針レベル（昭和 28 年 6 月規模）の洪水が発生した場合の 1 年間通じての水の濁りのシミュレーション結果です。

図一 1 立野ダム地点における年間で環境基準を超える日数